

第8課 霊の結ぶ実は誠実

2月20日

暗唱聖句「たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります」ガラテヤ6:9

今週の聖句: マタイ25:1~13、ルカ16:10、テサロニケ第一5:23, 24テモテ第二3:1~5、ヘブライ11章

今週の研究:「信仰」と「忠実」は密接な関係がありますが、同じではありません。信仰とは、あの名状しがたい力、神からの賜物であって、私たちはそれによってまだ見たことのないものを信じることができます。「信仰とは、望んでいる事柄を確認し、見えない事実を確認することです。」ヘブライ11:1。

対照的に、忠実とは、この内なる信仰体系を実行に移すことです。神に対する信仰を持つとき、私たちは忠実な方法で行動します。忠実な行動は私たちの信仰の現れであって、そのような態度は私たちの信仰と行動体系を一つに結ぶ糸です。

日曜日:神の真実には、次のような特性があります。

1. 神の真実は広範囲におよびます。「主よ、あなたの慈しみは天に、あなたの真実は大空に満ちている」(詩編36:6)
 2. 神の真実は確かです。「それでもなお、わたしは慈しみを彼から取り去らず、わたしの真実をむなしくすることはない」(詩編89:34)
 3. 神の真実は偉大です。「あなたの真実はそれほど深い」(哀歌3:23)
 4. 神の真実は天に備えられています。「わたしは申します。『天にはとこしえに慈しみが備えられ、あなたのまことがそこに立てられますように』」(詩編89:3)
-

水曜日:忠実を構成する要素として、次の特性をあげることができます。

信頼性:信頼性は人から信頼されることです。最近、だれかに信頼を裏切られたことはありませんか。そのとき、どのように感じましたか。そのことは信頼性のない人間の品性について、どのようなことを明らかにしていますか。

正直:正直とは真実であることです。それは、うそをついたり、だましたり、盗んだりしないことです。正直は強力な品性の礎石の一つであり、毎日の生活の中で実践されるべきものです。

誠実:誠実は社交儀礼のようなものです。誠実な人は生きる上で必要な価値観と信条を持っています。それはまた、他人の価値観と信条を尊重することを意味します。誠実さもまた、品性の礎石の一つです。

忠誠:忠誠は忠実であることです。それは困難な時でもだれかを支持することです。忠誠は友情の重要な要素です。

木曜日:物事は期待したほど早く実現しませんでした。私たちは次の約束から慰めを受けることができます。「たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば時が来て、実を刈り取ることになります」(ガラ6:9)

21世紀の神の民にとっての問題は、「神は今後も忠実であり続けるか」ではありません。神がご自分のすべての約束に忠実であることはすでに明らかではありません。問題は「終わりまで忠実であるか」です。

「誠実な人間になりたい」とだれしもが思うのではないのでしょうか。それも見せかけのものではなく真実からの誠実な心を…

しかし現実には、自らの心を省みると、とてもそのようなものが備わっていない姿しか見えません。なぜこのような自分なのでしょう。それは傲慢なのかもしれません。そして小手先だけで物事を納めようとしてしまうことも多々あります。

今週の学びをしていたら下記の聖句が心に浮かんできました。

主に祈り、「主よ、彼の目を開いて見えるようにしてください」と願った。主が従者の目を開かれたので、彼は火の馬と戦車がエリシヤを囲んで山に満ちているを見た。(列王記下6:17)

このみことばは、スリヤの王が預言者エリシヤが滞在している街を一夜のうちに包囲した時の彼の祈りでした。従者は敵の大群におびえていました、預言者はもっと大きな力をはっきりと見つめていたのです。

わたしたちの失敗の多くは、まわりだけを見ていたり、上からの力を忘れている時に起こります。そのような時に、恐れたり、真実を語らず逃げてしまったりするものです。

神さまの偉大な力をしっかりと見据えている時は、その御手に信頼している時には、このような失敗はしません。それに気づかせてくれるのは、祈り、みことばに謙虚に耳を傾けることなのです。

何か困難なことに遭遇したら、まず祈りましょう。それは全宇宙を創造された神さまの恵みの蔵を開く鍵なのです。神さまは、わたしたちの必要をご存じで、必ずお導きと助けを与えてくださいます。